

風土記の丘の花だより²⁹²

今、そしてこれから見られる植物(2025年10月11日)

台風が通り過ぎ、さらに秋らしくなってきたように感じます。今年は一月遅れの中秋の名月もきれいに澄み渡り、感動的でした。もう今夜の月は「更け待ちの月」ですね。ところで、お月見にはハギとススキを飾りましたか？



風土記の丘でもススキの穂が光り、野山がとてもきれいな季節になりました。これは大日山35号墳で10月の1日に撮った写真です。私は秋風に吹かれて、とても気持ちよかったですよ。今はもっときれいでしょうね。ご承知のようにススキはイネ科の植物で、別名を「おばな」といいます。万葉集に「秋の野の 尾花が末(うれ)に鳴く百舌鳥の 声聞くらむか 片聞く吾妹(わぎも)とう歌があります。どんな意味か想像してみてください。モズの声がかたたましく聞こえる風土記の丘です。



変わった形の花ですね。これはヤブマメの花です。名前のとおり「藪に生える豆」です。目立つ色ですが、1センチ余りの小さな花ですから、何気なく歩いていると、気づく事はないと思います。この写真は、ハクモクレンやコブシガ咲く広場と道を挟んだ向かい側の斜面で撮りました。立ち止まってよく探してみてください。マメ科の植物ですから花の後には、きぬさやの小型みたいなお豆ができます。さらに落花生みたいに、土の中にも豆ができるそうです。でも、私はまだそれを確かめたことはありません。



とても小さな3ミリほどの薄ピンクの花、ヒメジソの花です。名前でわかるようにシソ科の植物です。大きくなっても50センチほど、だいたい20センチほどの小さな草です。シソ科にはありがちですが、茎の断面は四角です。それは指でさわると分かります。葉は2枚ずつ向かい合って付き(対生・たいせい)周りに粗いぎざぎざ(鋸歯・きょし)があります。これととてもよく似たイヌコウジュという草もあります。花の萼や葉の鋸歯がちょっと違います。また紹介します。



オレンジ色のきれいな花を咲かせていたヒオウギが実を付けています。この真っ黒な実を「ぬばたま」と言います。「ぬばたまの」は和歌では、夜、闇、髪など黒いものに付く枕詞として使われてきました。そんな歌が万葉集には80首あまり残されています。

次回293号は2週間あいて、25日の発行となりますので、ご了承ください。松下